



1級の認定証書を授与された瀧本征範さん(左)

みふね恐竜観光ガイド1級2級認定式

6月29日、恐竜の郷みふねプロジェクト(竹田津純会長)は、みふね恐竜観光ガイド1級および2級の認定式を開催し、認定された26人が参加しました。みふね恐竜観光ガイドとは、恐竜に関する知識や技能、御船町の魅力を観光客に伝え、学びのサポートをする重要な役割をするものです。認定式では、恐竜博物館の本田恵典館長が1級には赤、2級には青の認定証書を授与しました。1級に認定された瀧本征範さん(熊本市)は「子どもから大人まで目を輝かせて、化石を発掘している姿を見ると嬉しく思います。夏から化石発掘体験が本格始動するので、またさらに勉強して、学習支援ができるように頑張りたいです」と話しました。

仮設で復興七夕飾り

6月30日、木倉校区社協(佐藤智子会長)が仮設住宅の人たちをもっと元気にしたいという目的から、木倉校区内の各仮設住宅のみんなの家で復興の七夕飾りを行いました。落合仮設住宅では、若葉保育園(本田恵美子園長・144人)の年長児34人も一緒に参加し、入居者たちと七夕飾りを楽しみました。落合仮設住宅代表の小林一英さんは「こういったイベントを通して、子どもたちとふれ合うことでみんな元気が出てくる。地域の人たちともふれ合い、楽しい一日が過ぎました」と話しました。



みんなの願いが叶いますように



入居者と一緒に飾りづくりをする園児たち

きれいな花が咲きますように

6月30日、シンボルロードの花壇の花植えが行われ、町ボランティア連絡協議会、自衛隊隊友会御船支部、御船高校や御船中学校の生徒など約150人が参加しました。植えられた約1,600株のサンパラスルは、熊本復興支援活動『サントリー水の国くまもと応援プロジェクト』の一環で、サントリーフラワーズ(株)から寄贈されたものです。参加した武末獅子くん(御船中1年)は「みんなが通行するシンボルロードが花いっぱいになることで町を元気にできたらうれしいです」と話しました。



サンパラスルの苗を植える中学生たち



花いっぱい笑顔いっぱい!

お父さんいつもありがとう

6月16日、「父の日に牛乳を贈ろう」キャンペーンで、豊秋酪農組合女性部の3人が町を訪問し、副町長へ牛乳を贈呈しました。同キャンペーンは、牛乳が「ちち」と呼ばれることから、父の日のプレゼントとして、お父さんに美味しい牛乳を飲んでもらおうと企画。同組合による牛乳の消費拡大運動の一環として、平成13年から行われています。女性部の3人は「町の畜産農家が被災したことで、今年は乳量が少なく例年どおりの販売ができませんでした。来年こそは、さらに復興に向けて、たくさんの牛乳を皆さんに飲んでもらいたいです」と決意を話しました。



副町長に牛乳を贈った本田恵子さん(左)、赤星幸恵さん(中)、坂本優子さん(右)



1_ 御船ひよっこご愛笑会によるひよっこご踊り 2_ おいしい食べ物がいっぱい! 出店もたくさんでした 3_ もっこすファイアによるコント

町ライオンズクラブが被災地復興支援

6月18日、御船ライオンズクラブ(福富壽会長)主催による「被災地支援一明日に向かって発進! 御船町!」をテーマにカルチャーセンター前広場で開催され約600人が参加しました。これは「町を盛り上げ、元気づけ、みんなが会える場所をつくりたい」との思いで、東京地区ライオンズクラブ有志の物資支援や大阪箕面ライオンズクラブが被災地への募金活動で集められた支援金などもいただきました。イベントでは、2人組のお笑い芸人「もっこすファイア」や子どもから大人まで人気のくまモンのダンス、平成音楽大学生有志による演奏などで会場を盛り上げました。

災害用車両贈呈式

震災当初、福岡トヨペット株式会社(中尾潤一代表取締役社長)から町に災害用車両として貸し出しされていたP H Vのプリウス2台が6月22日に、贈呈されました。P H Vとは、プラグインハイブリッド自動車の略で、走行時にCO₂や排気ガスを出さない電気自動車のメリットとガソリンエンジンとモーターの併用で遠距離走行ができるハイブリッド自動車にもなります。村井隆介代表取締役専務は「御船町のために少しでも役に立てるならという思いでした。有効に使ってください」と語りました。



震災当初から活躍していたプリウス

御船小学校で初の取り組み

6月28日、御船小学校(大脇為久校長・339人)で災害発生時における児童の引き渡し訓練が実施されました。熊本地震や大雨・台風接近時などの緊急時に児童が保護者の元へ、安全・確実に下校することが目的。訓練内容は、14時に大雨洪水警報が発令され、保護者は学校からの一斉メールを受け、混乱が起きないように歩いて来校。担任の先生は保護者に引き渡しカードを記入してもらい、確実に引き渡しを行いました。PTA会長の福味典一さんは「昨年の震災・水害の経験を経て実施したが、緊張感ある訓練ができてよかった。また課題も見つかったので、次に活かしたい」と話しました。



保護者に確実な引き渡し